【年次報告】

DG-Lab, 2019 ⇄ 2020

佐原浩一郎

偶然と必然にかかわらず、誰かがある場所を訪れ、一定の時間そこにとどまり、そして去っていく、こんなふうに極度に一般化して語ったほうがいいのか、そうではなく、ドゥルーズとガタリにかかわる研究会およびイベントが開催され、大学や学会に所属していなくても参加可能であるということを理由に、あるいは関西で開催されているということを理由に、もしくは別段の理由なしにそうした催しに参加する、というふうに、ある程度特殊化して語ったほうがいいのか。あるいはまた、この程度の特殊化ではまったく十分ではなく、より多くの言葉を費やす必要があるのか（より多くの言葉を費やすことがより高度に特殊化することにそのまま相当するわけではありませんが）。いずれにしても、わたしはいま、DG-Lab が 2019 年度もいくつかの研究会およびイベントを開催し、いずれの催しも例年どおり多くの参加者にめぐまれた、ということを言おうとしています。

DG-Lab の 2019 年度のテーマは『意味の論理学』でした。この年に限ったことではありませんが、扱う題材が題材だけに、研究会の内容は、ある程度は仕方ないにしても、それなりに専門性の高いものになります。アカデミズムの外で、ドゥルーズとガタリに関心のある人たちが必然的に意見交換することになるような場となる、ということがこの研究会の設立された一つの理念だったことを思えば、そうした専門性の高さは当初の理念を退けてしまいはしないか、といった議論も一回りして、今では専門性が高くなってしまう理由を考えるよりも、アカデミズムの外にそういう場があるということ、つまり、ドゥルーズとガタリの哲学が一般化されすぎず、正確な読解が望まれ、それなりに高度な議論が確保されるような場が大学や学会とは無関係に成立しているということ、そうしたこと自体が求められているのかもしれないと思ったり、思わなくなかったりしています。そして、今後 DG-Lab がより開かれたラボになっていくとするなら、このようなある意味での難解さを足がかりにしてこそなのではないかと思います。

2019 年度の研究会は例年どおり六回開催され、読書会では毎回晦渋なテキストに取り組みながらも、その時々の発表者のテキスト読解に導かれながら、そして、参加いただいた方々の寛容さ、我慢強さに助けられながら、基本的にはやわらかく飄々とした雰囲気の中にありました。12 月には、立教大学の江川隆男先生にお越しいただき、イベント「『意味の論理学』を本質変形する」を開催しましたが、こちらは、近年のドゥルーズに対する関心の高さを改めて実感させられるような盛況ぶりでした。登壇していただいた江川先生、このイベントの実現に奔走してくださった秋田大学の小倉先生、そして参加いただいたみなさまにあらためて感謝したいと思います。

2020 年度は『哲学とは何か』をテーマに据え、すでに最初の読書会は終えています。その後情勢が変化したため、この先の定例会のあり方などを再考しているところです。どのようなかたちになるとしても、読書会は開催されるだろうし、研究発表の場が設けられるだろうし、ドゥルーズやガタリに関心のある方がそこに参加するということになります。あるいは、誰かによって何かが開催され、何らかの場が設けられ、誰かが参加するということになります。例えば、集い、座り、読み、聞き、考え、話すということになります。少なくとも、見かけのうえでは。つまり、そうしたことが執拗に反復され、反復の下では、非常に緩慢でありかつ絶え間ない変化がついてまわり、何かはもう生起してしまっていて、その何かを認識するときにはすでに何か別の生起の中にあるということになります。もちろん、DG-Lab の定例会の今後のあり方について、反省し、工夫し、よりよいものにしていく必要があるとは思いますが、そうしたことにかかわらず、夢のなかでは、ある系列が連続していくことになります。

第二十五回 DG-Lab 研究会

【日時】2019 年 1 月 19 日（土）14 時～19 時（＊13 時 5 分からミーティング）

【場所】長岡京市生涯学習センター（バンビオ 1 番館内）、 6 階・会議室 2

【読書会】『意味の論理学』第 2 セリー；第 3 セリー；第 23 セリー；第 26 セリー（担当：平田公威）

【研究発表】内藤慧「『意味の論理学』と物体・非物体の哲学」

第二十六回 DG-Lab 研究会

【日時】2019 年 3 月 9 日（土）14 時～19 時（＊13 時 5 分からミーティング）

【場所】長岡京市生涯学習センター（バンビオ 1 番館内）、6 階・会議室 3

【読書会】『意味の論理学』付録「クロソウスキー、あるいは身体―言葉」（『意味の論理学　下』pp.185-224）(担当：得能想平)

【研究発表】伊藤幸生「ドゥルーズにおける法論の位置づけと射程～判例／法解釈論を核心として」

第二十七回 DG-Lab 研究会

【日時】2019 年 5 月 25 日（土）14 時～19 時（＊13 時 5 分からミーティング）

【場所】長岡京市生涯学習センター（バンビオ 1 番館内）、6 階・会議室 3

【読書会】『意味の論理学』第１８セリー～第２１セリー（担当：内藤慧）

【研究発表】得能想平「最初期ドゥルーズの哲学」

第二十八回 DG-Lab 研究会

【日時】2019 年 7 月 27 日（土）14 時～19 時（＊13 時 5 分からミーティング）

【場所】長岡京市生涯学習センター（バンビオ 1 番館内）、4 階・学習室 3（13 時 5 分～15 時）、4 階・学習室 2（15 時～19 時）

【読書会】「ミシェル・トゥルニエと他者なき世界」（『意味の論理学　下』所収、小泉義之訳、河出文庫）（担当：伊藤幸生）

【研究発表】佐々木晃也「ドゥルーズにとってのスピノザ」

第二十九回 DG-Lab 研究会

【日時】2019 年 9 月 28 日（土）14 時～19 時（＊13 時 5 分からミーティング）

【場所】長岡京市生涯学習センター（バンビオ 1 番館内）、4 階・学習室 2

【読書会１】『意味の論理学』第３０セリー～第３２セリー（担当：内藤慧）

【読書会２】７８年のスピノザ講義「情動と観念」を読む（担当：佐々木晃也）

第三十回 DG-Lab 研究会

【日時】2019 年 11 月 30 日（土）14 時～19 時（＊13 時 5 分からミーティング）

【場所】長岡京市生涯学習センター（バンビオ 1 番館内）、6 階・会議室 3

【読書会】『意味の論理学』第 16 セリー；第 17 セリー（担当：佐原浩一郎）

【研究発表】強度としての「第 3 ソナタ」――ネオ・バロック試論　　発表：F. アツミ（Art-Phil）

関連イベント

『意味の論理学』出版 50 周年記念特別企画「『意味の論理学』を本質変形する」

『意味の論理学』出版 50 周年記念特別企画

「『意味の論理学』を本質変形する」

日時 ： 2019年12月7日（土）13:00-18:00（12:30開場）
場所 ： 慶応大学三田キャンパス　大学院校舎5階352教室
定員 ： 40名
入場 ： 無料、予約不要（座席がなくなり次第立ち見になります。ご了承ください）
主催 ： 秋田大学教育文化学部地域文化学科国際文化講座　小倉拓也研究室
DG-Lab（ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ）

タイムテーブル

13:00 導　入 小倉拓也（秋田大学）
導入――『意味の論理学』の地図作成
13:20 研究発表 内藤　慧（東京大学）
海の原理とストア派――『意味の論理学』動的発生論のストア派的読み換え
14:05 研究発表 平田公威（大阪大学）
動詞的になること――『意味の論理学』におけるアイオーンの現在の文法論的考察
15:00 講　演 江川隆男（立教大学）
〈批判／臨床〉の並行論について――『意味の論理学』の一義性の思考（仮）
16:50 全体討議

18:00 閉　会

日時：2019 年 12 月 7 日（土）13:00-18:00（12:30 開場）

場所：慶応大学三田キャンパス　大学院校舎 5 階 352 教室

主催：秋田大学教育文化学部地域文化学科国際文化講座　小倉拓也研究室、DG-Lab（ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ）

導入：小倉拓也（秋田大学）「導入――『意味の論理学』の地図作成」

研究発表１：内藤慧（東京大学）「海の原理とストア派――『意味の論理学』動的発生論のストア派的読み換え」

研究発表２：平田公威（大阪大学）「動詞的になること――『意味の論理学』におけるアイオーンの現在の文法論的考察」

講演　江川隆男（立教大学）「〈批判／臨床〉の並行論について――『意味の論理学』の一義性の思考（仮）」